

トーランスでの生活を終えて

村上 菜里

私にとって人生初の海外生活が今回の派遣プログラムでした。全てが強い感動の連続で、素晴らしい3週間となりました。その中でも特に印象に残った、日本とアメリカの違いについて紹介します。

1つ目は、普通の人の夜の過ごし方に関するものです。

ホストファミリーと外食した時のこと。夜の10時のあるレストランの中では、日本ではあまり見た事のないような光景が飛び込んできました。夜の10時にもかかわらず、たくさんの大人がお酒を飲みながら談笑をしているお店の中に、赤ちゃんや小さな子供までたくさんいたのです。日本では、夜遅い時間、お酒を飲む場所に赤ん坊や幼児を連れて行きませんが、アメリカでは、“家族と一緒に過ごす”ということを大切にするので、このようになるのかと思いました。

2つ目は、接客の対応についてです。

見ていて微笑ましい光景がありました。デトロイトからラスベガスに向かう飛行機の中でのこと、キャビンアテンダントが3人の若い女性客と、楽しそうに笑いながら話していたのです。アメリカでは客と職員の距離が近くて、見ていて面白く、自由を感じさせる仕事現場でした。一方、日本では、“公平な扱い”を重視するという考えに基づいた接客が一般的であり、客と職員は一定の距離を保つことから、接客態度は少し硬い感じがします。“リラックスを求める”のか、“公平な扱いを重視する”のか、それぞれ国によって考え方が相違すると感じました。

3つ目は、年齢による上下関係の違いについてです。

日本には、敬語があります。私は、小学生のころから部活動で、年上の部員を先輩と呼び、敬語で話してきました。当時は、小学生同士なのに敬語を使うことにとても違和感がありました。その後、何かの機会に“海外では年齢による上下関係はない”ということを知りし、“実際にはどうなんだろう”と、今回のトーランス訪問の際にいろいろな場面で興味を持って見てきました。

それは事実でした。トーランスでは、派遣生と団長がとても仲が良く、まるで友達関係のようなのです。他の場合も同様で、相手が自分より年上だったとしても対等な関係なのです。

さよならパーティーの日に、ヘアアレンジや着付けをするため、トーランスの団長の家にみんなが集まり、お喋りしながら楽しく準備をしました。私のホストシスターと団長は仲が良く、私がホストシスターの家に滞在している間に、団長が家に来て一緒にバーベキューをしたりもしました。年齢差を超えて様々な世代の人と交流を持てたのは、日本では得られないことだったので、今回の派遣の収穫でした。

19日間の経験は私にとって一生忘れられない貴重な思い出です。3月の説明会に来ていた人の数を見て、自分には行ける可能性はないと諦めかけましたが、自分の思いが叶って行けることになったときは、言葉に表せないくらいの嬉しさでした。アメリカでの生活も毎日が充実していて、すべてが素晴らしい体験でした。このような貴重な機会を与えていただきまして本当にありがとうございました。

